

視察報告

報告者 自由民主党周南 青木義雄

日時 令和7年 11月12日

視察自治体 和歌山県田辺市

視察項目 議員定数見直しの経緯と課題等について

田辺市議会議員選挙は令和7年4月27日定数18人で行われた。直前の3月定例会で定数20人から18人の2削減を決定した。

まず田辺市においてはこれまでも市議会議員選挙において同じような状況が繰り返されており、田辺市特有の議会文化といっても過言ではない。

平成17年定数30人

平成21年定数26人

平成25年定数22人

令和3年定数20人

令和7年定数18人

この度の18人とした経緯は、令和6年9月議会運営委員会において議員定数について調査研究を進めるように議長の諮問から始まった。その後、議員全員を対象とした研修会を開催し、議会運営委員会で議論が重ねられた。同年11月に議会運営委員会では意見の集約には至らず一定の結論が出なかった、とい

う答申を議長に対して行った。この答申をもって議会運営委員会での調査検討は終了するという結論に至った。

その後令和7年3月定例会において議員定数18人とする議員発議による提案があり、採決の結果、賛成反対同数となったため議長裁決により原案（議員定数2削減の18人とする）が可決された。

選挙直前に通常は考えにくい経緯であるが、このような削減が繰り返して行われてきたのが田辺市議会である。十分な議論がなされずに、毎回選挙直前になって、削減を繰り返してきた結果、広大な面積を有する田辺市で議会に役割である行政チェックや監視が機能するのか、市民の声が十分届くのか、大いに疑問が残る。最終的に不利益を被るのは市民である。変化の激しい社会情勢の中で、行政の役割も多様化複雑化している。そうした中で二元代表制である議会を構成する議員は、議会としての役割や機能を発揮して市民生活の維持向上・安心安全を図り、日々研鑽し資質向上に努めていくことが重要である。

その上で人口・面積・地域性等あらゆる状況を分析して、周南市議会としての議員定数の適正化を導き出していく丁寧で真摯な議論を重ねていくべきである。

最後に研修内容を説明をした議会事務局局長が安易な削減はすべきではない、と本音を漏らしたことは強く印象に残った。

令和7年11月13日 会派行政視察 和歌山県那智勝浦町
調査事項「那智駅交流センター 道の駅なち」について

所管 那智勝浦町農林水産課

文責；小林正樹

【那智勝浦町について】

面積 183.30 km²に人口 13,500 人が居住しており、周南市と比較すると、面積は4分の1、人口は10分の1の計算となる。まちのランドデザインとして「マグロと温泉の町」のフレーズを冠しており、基幹産業としてはその名の通り漁業と、世界遺産である熊野古道（代表例として那智大滝および熊野那智大社）を軸とした観光業が町民の暮らしを支えている。観光に関しては一時の勢いと比べ陰りが見えたものの、近年では外国人観光客が多く、町の至るところでそれらしき方々を目撃した。

【所感】

珍しい駅直結型の道の駅で、元々は平成10年度に整備完了した「那智駅交流センター」が前身。駅舎の景観を生かすという整備構想であったのも頷ける洒落た外観であり、現在においても紅と白の鮮やかなデザインには一瞬で目を奪われる。一階には世界遺産情報センターが設置されており、やはり世界遺産を有するという無二の強みを生かす形で、八咫鳥にまつわる伝承や地域の伝統行事等、訪れる方を飽きさせない工夫がなされている。

一方で当日対応くださった副議長や担当者が「課題だらけ」だと口を揃えていたのが、二階にある温泉入浴施設「丹敷の湯」であり、現在はタイルの一部が剥がれ休止中とのことであった。源泉は27℃の冷泉で、ボイラー費用の高騰・修繕費がかさみ、温泉部門で年間1,400万円程度の赤字となっている。これは他部門が100万円程度の黒字、合算で1,200万円程度の赤字であることから、温泉部門が完全に足を引っ張っている収支といえる。町は今後の方針を決定するため、令和6年度に「経営調査・計画策定支援業務委託料」を計上。調査結果を受け、別棟となっている直売所と本館の集約や指定管理制度の導入を目指す他、温泉施設じたいは廃止か存続かを迫られている状況にあり、令和7年9月にプロポーザル関連の予算が可決されたところである。そして令和8年4月には町長選挙を控えており、間違いなく選挙の争点になるとのことである。

我が周南市としても、機能強化はもとより、機能の整理・集約・廃止を検討する際にも非常に参考となる材料をいただく機会となった。とりわけ道の駅というより、石船温泉憩いの里や嶽山荘をはじめ、同様の協議を進める時期が差し迫っている類似施設も複数抱えている。道の駅なちがどういう道筋を辿っていくのか、今後の動向にも注視したい。

【質疑】

問) 町議会はどういう状況なのか。

答) 町議会は昨年度「丹敷の湯を残すべき」とする請願を一人差で可決、今時点では「観光施設というより福祉施設の位置づけであれば赤字で構わないのでは」との意見が過半数を占めている。

問) 足湯ではどうか。※現地視察を踏まえての感想※

答) 観光客目線で考えると、温泉というより足湯として残すほうが敷居が低く、気軽に利用しやすいと思う。貴重な意見として受け止めたい。